|  |  |
| --- | --- |
| 春木校章改 | 平成30年6月29日7月号ＮＯ.4**春木小学校園だより** |

学校教育目標　　元気で根気よくやりぬく子を育てる　(元気な子)

よく考え、工夫する子を育てる　(よく考える子)

力を合わせ、進んでやる子を育てる　(協力する子)

**７月の予定**



お知らせ

市民プ－ルの開放について

広報「きしわだ」にも記載がありましたが、

市内の4つのプール(山直北・葛城・城北・春木)が一般開放しません。

監視委員等の確保困難のためだそうです。

☆特別の教科「道徳」の通知表の記載について☆

本年度より、「道徳」の時間が「特別の教科　道徳」となり、通知表に評価を記載する必要があります。

小学校学習指導要領解説　道徳編【文部科学省】には、「児童の一時期の様子だけで即断することなく、継続的に観察するなどして、長期的な視点に立った評価を心掛ける」(P128)ことから、１年間の様子を学年末に評価いたします。

よって、１学期２学期の通知表には、評価がありません。

お知りおきください。

【校長室から】　西郷どん

　先日の全校集会で「西郷どん」のお話を少しだけしました。ここで、少し掘り下げてみます。西郷隆盛は、1828年に薩摩藩(今の鹿児島県)に産まれます。２年後、近所に生涯の友となる大久保利通が生まれ、鹿児島独特の教育方法、郷中教育(ごちゅうきょういく・先輩が後輩に勉強を教えていく方法)でお互いに成長していきます。

　西郷さんは、島津斉彬という殿様に気に入られて、当時の日本の有名人と多く交友を結びますが、その殿様が亡くなり、島送り。その後復帰も新しい殿様、島津久光と仲良くなれず再び島送り。ここで、後輩の大久保利通が殿様を説得し、復帰するとこに成功。江戸幕府を倒しに軍勢を起こし、江戸城を攻めようとして、勝海舟という幕府の代表と話し合い、戦うことなく江戸城を手に入れます。

　「明治」という新しい時代を生み出しました。

　その後、「征韓論」で国中が分断されます。西郷さんは、故郷鹿児島に引退したはずでした。ところが、納得できない若い者たちが、打倒新政府として西郷さんを大将に祭り上げ、戦争を起こします。西南戦争といいます。当時最強の鹿児島の兵隊と文明開化のもと新兵器を持った素人の兵隊との闘い。このとき、全国に新聞が普及していったともいわれています。その新政府軍の総責任者がなんと、親友の大久保利通。この戦いは、西郷さんの「晋どん、ここらでよか」の一言で終わります。西郷さんが亡くなったことを聞いた大久保さんは、部下に「ごくろうさん」と一言告げ、自室にこもって大泣きしたとか。「敬天愛人」は西郷さんの「為政清明」が大久保さんの座右の銘です。一度、意味を調べてみてください。

詳しくは、司馬遼太郎著「翔ぶが如く」、海音寺潮五郎著「西郷隆盛」を。